

山口県教育委員会会議録

日時：平成29年10月20日 午後2時
場所：美祢来福センター 多目的ホール

教 育 長	<p>それでは、ただいまから平成29年10月の教育委員会会議を開催いたします。</p> <p>教育長の浅原でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>会議に先立ちまして、一言申し上げます。</p> <p>去る10月の17日、公立学校教職員による盗撮事案について、今年度3件目となります、懲戒免職処分を実施いたしました。</p> <p>このような不祥事が発生しましたこと、まずもってお詫びを申し上げます。</p> <p>県教委といたしましては、今年度教職員に係る2件の逮捕事案が発生し、不祥事の根絶に向けて、県・市町教育委員会及びすべての公立学校一丸となって取り組んでいた最中に再びこのような事案が発生しましたこと、きわめて厳しくそして重く受け止めております。</p> <p>このため、一昨日、県・市町の臨時教育長会議を開催し、特段の危機管理意識をもって、再発防止と綱紀の徹底を図ることを確認したところでございます。</p> <p>今後も、あらゆる不祥事の根絶に向けた取組を徹底し、教育に対する信頼回復に向けて全力を挙げてまいりたいと考えております。</p> <p>改めまして、皆様こんにちは。</p> <p>本日は、お忙しい中、多くの皆様に傍聴にお越しいただいたことに対しまして、まずもって心からお礼申し上げます。</p> <p>今日の教育委員会会議は、通常、県庁内の教育委員会室で開催している会議を、会場を県庁の外に移しまして会議を実施するというところでございますが、この移動教育委員会は、教育委員会会議を県内各地で開催し、県の教育委員会について、多くの方々に知っていただくために平成16年度から実施しているものでございます。</p> <p>県の教育委員会会議では、重要な県教育行政の方向性を審議するほか、教育の諸課題について、テーマを定めて各委員が自由に討論する意見交換の場も設けているところでございます。</p> <p>それでは、さっそく、会議を進行したいと思います。</p> <p>最初に、教育委員の自己紹介をしたいと思います。</p> <p>各委員さん、順に自己紹介をお願いいたします。</p>
中 田 委 員	<p>こんにちは、中田と申します。今、教育委員の2期目6年目に入っております。仕事は山口大学の経済学部にて勤めております。よろしくお願いいたします。</p>
佐 野 委 員	<p>こんにちは、佐野と申します。私は2年目になりまして、周南市よりまいっております。職業は会社役員をいたしております。できる範囲で山口県の教育行政に役に立てればと思っております。よろしくお願いいたします。</p>

宮 部 委 員	<p>こんにちは、宮部と申します。私は、この10月から2期目ということで、5年目に入りました。岩国からまいっております。岩国で建設業を営んでおります。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
小 崎 委 員	<p>こんにちは、小崎と申します。昨年の10月から務めさせていただいています。本当の初めての移動教育委員会ということで、とても緊張しています。子どもが3人おまして、幼稚園のときから小・中・高にいたるまでいろいろPTAに携わらせていただいています。今日はどうぞよろしくお願いいたします。</p>
教 育 長	<p>なお、石本委員は所用のため欠席されていますので報告いたします。それでは本日の会議の署名委員の指名を行います。中田委員と宮部委員、よろしくお願いいたします。それでは、議案の審議に入りたいと思います。議案第1号について、教育政策課から説明をお願いします。</p>
教育政策課長	<p>議案第1号山口県教育委員会表彰規則による表彰について御説明いたします。</p> <p>議案書をおめくりいただきまして、2ページからでございます。</p> <p>去る9月30日に山口県立防府商工高等学校の藤本博途教諭が早期退職、10月1日に萩市立むつみ中学校の白上正二教諭が、逝去されたところでございます。</p> <p>これに伴いまして、お二方が、「永年勤務し、職務に精励した者」とであると、それぞれ防府商工高校、萩市教育委員会から教育功労者表彰の内申がございました。</p> <p>早期退職に伴う表彰に係る永年精勤者は、勤務年数が25年以上となっております。また、死亡退職に伴う方は、勤務年数が20年以上の者となっております、それぞれ内申がございました状況と併せまして、御両名とも表彰の基準を満たすものでございました。</p> <p>これまでの御功績に報いるためにも、速やかに表彰する必要がございましたことから、教育長に対する事務の委任等に関する規則第4条第1項の規定に基づき、教育長が臨時に代理して、9月30日付けで藤本教諭を、10月1日付けで白上教諭を表彰いたしましたので、御報告し、承認をいただきたく、お諮り申し上げます</p>
教 育 長	<p>ただいま、教育政策課から議案第1号について説明がありましたけれども、御意見、御質問がありましたらお願いします。</p> <p>教員の退職に伴う表彰ということでございますが、議案第1号を承認してよろしいでしょうか。</p>
全 委 員	承認
教 育 長	<p>はい、それでは議案第1号を承認いたします。</p> <p>続きまして、議案第2号について、高校教育課から説明をお願いします。</p>

<p>高校教育課長</p>	<p>「山口県立高等学校等の管理に関する規則」の一部を改正する規則の制定に関する第2号議案について、お諮りします。</p> <p>今回の改正は、7月にすでに公表しております入学定員に係る規則の改正が主な内容であります。</p> <p>山口県立高等学校等の管理に関する規則の改正につきまして、資料18ページに改正の概要をお示ししておりますので御覧ください。</p> <p>まず、「1 改正の趣旨」についてですが、平成30年度の入学定員の策定等に伴い、規則の一部について所要の改正を行うものであります。</p> <p>次に、「2 改正の内容」についてですが、規則にある別表の1のうち、下関北高等学校の開校、田布施農工高等学校及び萩高等学校の学科改編、周防大島高等学校等の入学定員の変更に伴い、関係学校の第1学年生徒定員等を改めるものであります。</p> <p>なお、「3 施行期日」につきましては、平成30年4月1日としております。</p> <p>以上、御審議をお願いいたします。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>ただいま、高校教育課から議案第2号について説明がありました。御意見、御質問がありましたらお願いいたします。</p> <p>よろしいでしょうか。それでは、議案第2号について、承認することとしてよろしいでしょうか。</p>
<p>全 委 員</p>	<p>承認</p>
<p>教 育 長</p>	<p>それでは議案第2号を承認いたします。</p> <p>続きまして、議案第3号について、引き続き高校教育課から説明をお願いします。</p>
<p>高校教育課長</p>	<p>議案3号の「県立高校の再編整備について」御説明します。</p> <p>関連の資料は、19ページから23ページまでとなっておりますが、20ページの議案参考資料を御覧ください。</p> <p>県西部多部制定時制高校の設置（案）及び西市高校の再編整備（案）につきましては、7月の教育委員会会議において、お示ししている資料を御説明し、御協議をいただきました。</p> <p>その後、8月27日（日）に、西市高校があります旧豊田町を含む下関市の2会場におきまして、地域説明会を開催し、案の内容について周知を図るとともに御意見をいただいたところです。</p> <p>説明会の案内については、報道発表に加えまして、下関市内の全ての中学生の保護者に配布するとともに、説明会会場での案内掲示などによりまして、参加を呼びかけたところです。</p> <p>そうしたところ、2会場合わせて約35人の方々にお集まりいただきました。</p> <p>この説明会では、県西部多部制定時制高校の設置につきましては、「入学定員はどうなるのか知りたい」、「募集停止する高校の職員の意見を、新しい学校づくりに反映してほしい」などの御意見等をいた</p>

	<p>だき、また、西市高校の分校化につきましては、「入学定員や推薦入試の内容はどうなるのか知りたい」、「総合学科で、大学進学などのニーズに応えられる教育を進めてほしい」、「部活動はどのようになるのか、教えてほしい」、「子どもたちが本当に望む学校づくりをしてほしい」などの御意見等をいただいております。</p> <p>こうしていただいた御意見、あるいは7月の本委員会での協議、9月県議会文教警察委員会の協議、関係者の御意見などを総合的に勘案した上で、多部制定時制高校については、平成31年度に下関中央工業高校跡地に設置するとともに、下関西高校、下関工科高校及び下関商業高校の夜間定時制課程の生徒募集を停止することとし、また、西市高校については、平成31年度に分校化し、山口農業高校を本校とする分校を西市高校の校地に設置することとしたいと考えております。</p> <p>なお、いただいた御意見につきましては、今後の学校づくりに生かしていきたいと考えております。</p> <p>以上、このような方針を進めてよろしいか御審議をお願いいたします。</p>
教 育 長	<p>高校教育課から議案第3号について説明がありましたけれども、御意見、御質問がありましたらお願いいたします。</p>
佐 野 委 員	<p>県西部の多部制定時制高校の設置についてですけれども、教育の特色の方向性というところで、表記されているように今から多様なニーズが想定されると感じておりますので期待しております。</p> <p>来られる生徒の中には、まだ具体的な方向性を持っていない生徒もいると思います。それでも、「幸せになりたい」という気持ちは共通していると思いますので、そういう漠然とした気持ちを具体化したり、希望を実現する道筋をつけたりできるような高校生活になってほしいと思います。</p> <p>それと、先日、周防大島高校に視察に行っただけですけれども、学年を通じて総合的な学習をやられていました。この考え方は大学とかでも「〇〇スタンダード」という形で、学校では最低限ここまでの基本は教えますということで、社会に通用する基礎学力とかマナーなど、そういうスタンダード的な部分をしっかり学べるような学校になってほしいと感じております。</p>
教 育 長	<p>ありがとうございます。今の御意見も踏まえまして、学校づくりを進めていきたいと思っております。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p> <p>県西部の多部制定時制高校ということで今回はお諮りしておりますが、先般の県議会で県央部の新山口駅周辺につくる多部制定時制高校につきましても、方針を発表したところです。これはもう少し時間がかかりますけれども、今回は県西部多部制定時制高校あるいは西市高校の話でございますが、御意見いかがでしょうか。</p>
佐 野 委 員	<p>西市高校の方ですけれども、農業科という特色を備えた総合学科を</p>

	<p>つくるということで、大学進学を見据えた御要望もあったようなので、いろいろな可能性を保ちつつ、農業という切り口から見た学びを子ども達の成長に生かしてもらいたいと思います。</p>
中 田 委 員	<p>多部制定時制高校についてですが、3つの高校で普通科、工業科、商業科それぞれあったものが、1つの高校で総合学科という形になるということで、例えば、下関商業高校の商業科に通われていた方が、最初は卒業後すぐに就職かなと思っていただけれども、もうちょっと勉強したいというように勉強への意欲は高まった場合に、受験に備えて普通科の授業を受けることができるのでしょうか。</p>
高校教育課長	<p>生徒が系列で学ぶ中で、その後の進路を見ながら幅広く選択できるかというお尋ねかと思いますが、総合学科となりますので、基本的に入学した段階でどの系列かは決まっておられません。1年の段階で進路を考えながら、それぞれどういう系列を選択するかを考えていくようになります。</p> <p>ただし、いわゆる学科ほどの縛りがないので、その系列の選択をとりながら、夜間の部、あるいは午後の部など別の部の授業を選択することも可能になりますので、そうした中で進路を見据えながら幅広い選択ができるような形で進めていきたいと考えております。</p>
宮 部 委 員	<p>県西部多部制定時制高校のことについてですが、説明会に来られたのが先ほど35人ということなんですが、3校の定時制が1校に集約されるということですので、しっかりPRしながら新しいスタートにしていなければなどと思います。</p>
教 育 長	<p>ありがとうございます。しっかりとPRをして、多くの生徒が集まってくれるように頑張っていきたいと思っております。他によろしいでしょうか。</p> <p>それでは、議案第3号について、承認することとしてよろしいでしょうか。</p>
全 委 員	承認
教 育 長	<p>それでは、議案第3号を承認いたします。</p> <p>続いて報告事項に入ります。</p> <p>報告事項1について、教職員課から説明をお願いします。</p>
教 職 員 課	<p>資料の方は26ページを御覧ください。</p> <p>去る10月4日に名簿登載予定者を発表した、平成30年度山口県公立学校教員採用候補者選考試験の選考結果につきまして、御報告いたします。</p> <p>まず1-(1)の選考区分・志願区分別の受験状況及び採用候補者名簿登載予定者数の表を御覧ください。</p> <p>表中の()内は昨年度の数値、大きな[]内は第二志願者を含む数値でございます。</p>

	<p>数値の左から2番目の第一次試験免除者数は、表の下の「※印1」でお示ししておりますように、昨年度の採用試験の第二次試験で合格に至らなかった者で、総合評価ランクがA又はBの者、及び、他県における本採用教員で3年以上の勤務経験を有する者について、第一次試験を免除しており、その者の数を表しています。</p> <p>それでは、表の一番下の合計欄を御覧ください。</p> <p>第一次試験免除者137人を含めた志願者総数は1,550人で、そのうち、第一次試験の受験者は、1,331人、合格者数は626人で、第一次試験の倍率は、2.1倍でございました。</p> <p>また、第二次試験につきましては、第一次試験合格者数626人に第一次試験免除者137人を加えた763人のうち、727人が受験し、404人を名簿登載予定者としたところであり、第二次試験のみの倍率は1.8倍となりました。</p> <p>また、第一次試験受験者1,331人に第一次試験免除者137人を加えた、採用試験全体の受験者数1,468人を、名簿登載予定者404人で割った最終倍率は、3.6倍となりました。</p> <p>次に、右側の27ページの(2)から(6)の表は、それぞれ、教職大学院修了見込者特別選考、社会人特別選考、スポーツ・芸術特別選考、山口県教師力向上プログラム修了者特別選考、博士号取得者特別選考の状況を示しており、(1)の表の数値の内数となっています。</p> <p>なお、おめくりいただきまして28ページの表では、中学校、高等学校、特別支援学校中学部及び高等部について、教科や科目ごとの名簿登載予定者数や倍率を、お示ししております。</p> <p>以上で、御報告を終わります。</p>
教 育 長	<p>ただいま、教職員課から報告事項1について説明がありましたけれども、御意見、御質問がありましたらお願いいたします。</p>
佐 野 委 員	<p>昨今、人手不足という話をよく聞きますが、志願者が1割未満ぐらいの減少でとどまっていて、よく志願者を確保されているのではないかと感じております。その中で、最近の志願者の質的な傾向が分かれば教えていただけたらと思います。</p>
教 職 員 課 長	<p>まず、先ほど委員からお示しのあったように、積極的に県内外で志願者の確保に努めるPRをしているところでございます。</p> <p>資質につきまして、傾向というのはなかなか把握が難しいところでございますけれども、大学新卒者の受験割合が増えている状況もございまして、また、小学校教員をめざす者を対象とした教師力向上プログラム等では、事前の講義や現場での実習等を通じて積極性が増すとか、意欲が高まっているとそのような報告を受けております。</p>
佐 野 委 員	<p>今、話のありました教師力向上プログラムですけれども、順調な登録率で、おそらく山口県で教師を目指している優秀な方が選抜されて挑んでいるのではないかなと思います。このプログラムへの志願状況とか、こういったプログラムを通じて教職に就かれた方の状況は何か</p>

教職員課長	<p>ありますでしょうか。</p> <p>まず、志願の状況でございますけれども、この教師力向上プログラムにつきましては、山口県で教員になることを強く志す者を対象に選抜試験を行いまして、その修了者を対象とした特別選考を行うという制度でございます。このプログラムの志願状況でございますけれども、初年度の平成26年度は25人を募集いたしまして、応募者が45人。そして最終的な受講者が27人ございました。その後、27年度から29年度につきましては、募集枠は30人程度とし、応募者がそれぞれ平成27年度は60人、28年度は63人、29年度は59人という状況です。受講者につきましては、選抜を行った結果、この3年間につきましては、いずれも32人を選抜しているところでございます。</p> <p>次に、このプログラムの修了生の様子について御報告いたします。平成28年度に、新規採用者の小学校教諭を対象に大学等における教職課程等に関するアンケート調査を実施いたしました。この結果につきまして、教師力向上プログラムの修了者とそれ以外を比較したところ、プログラム修了の方が学校で求められる資質能力の向上に向け、より高い意識で学んでいるという評価もございます。</p> <p>また、29年度の調査につきましても、これから行う予定でございます。これらの調査結果は、平成25年度から設置しております山口県教員養成等検討協議会という、県内すべての教員養成課程を有する12の大学等も参加する協議会において、情報共有するとともに検証しながらプログラムの更なる改善、充実に努めてまいりたいと考えております。</p>
教 育 長	<p>概して、よく頑張っているという話は現場の校長先生から聞いております。他にいかがでしょうか。</p>
小 崎 委 員	<p>第一次試験とか第二次試験で不採用になった方たちは、例えば自分は何で落ちたのかという振り返りがそれぞれ個人にありますか。</p>
教職員課長	<p>第一次試験、第二次試験ともに、結果通知と合わせて、それぞれの項目、例えば面接ですとか筆記試験につきまして、全体をおよそ4等分にして、ABCDのランクで、どのようなところに課題があったのかをお示しするようにしております。</p>
教 育 長	<p>他にいかがでしょうか。</p> <p>それでは、報告事項1については、以上のとおりとさせていただきます。</p> <p>続きまして、報告事項2について、教職員課から説明をお願いします。</p>
教職員課長	<p>それでは29ページを御覧ください。10月18日に議会及び知事に対して行われた「平成29年度人事委員会勧告」の概要について、御報告いたします。</p>

本年の「給与勧告のポイント」は、資料上段の枠囲みにございますように、1点目は、給料表、期末・勤勉手当ともに改定は行わないこと。2点目は、扶養手当について、配偶者の手当額を減額し、子の手当額の引き上げを行うこと。3点目は、通勤手当について、交通機関等利用者の全額支給限度額の引き上げ及び自動車等使用者に係る手当額の見直しを行なうこと。以上の3つでございます。

まず、第1の「1 職員給与と民間給与との比較」についてです。山口県人事委員会が実施した調査の結果、(1)の月例給については、民間給与が職員給与を、1人当たり平均で、額にして307円、率にして0.08%上回っております。

(2)の特別給、いわゆるボーナスについては、民間事業所で支払われた特別給の支給割合は4.31月分となっており、職員の現行の年間支給割合は4.30月分となっております。

これらの調査結果と国の人事院勧告の内容等を総合的に勘案した結果が、2の「給与改定の内容」の「(1)本年の給与改定」です。

まず、アの給料表については、職員給与と民間給与の較差がわずかであることから、改定を行わないことが適当とされています。

イの期末・勤勉手当についても、民間の支給割合とおおむね均衡していることから、改定を行わないことが適当であるとされています。

次は30ページの「(2)給与制度の見直し」についてです。アの「扶養手当」については、表のとおり、現在13,000円である配偶者の手当額を、他の扶養親族の手当額と同額の6,500円まで減額し、現在7,100円である子の手当額を、10,000円まで引き上げる等の改定を、段階的に行うとされています。

また、イの「通勤手当」について、「(ア)交通機関等を利用する場合」においては、交通機関等の利用者の全額支給の限度額を現行の55,000円から70,000円へ引き上げ、「(イ)の自動車等を使用する場合」の手当額について、表のとおり、距離区分の上限の引き上げ及び手当額の改定を行うとされています。

勧告の内容のうち、教育委員会に関係する主なものは、以上です。

県教委といたしましては、内容を十分検討した上で、適切に対処してまいりたいと考えております。以上でございます。

教 育 長

ただいま、教職員課から報告事項2について説明がありましたが、御意見、御質問がありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。それでは、報告事項2については、以上のとおりとします。

続きまして、報告事項3について、高校教育課から説明をお願いします。

高校教育課長

平成30年度山口県立中等教育学校及び中学校入学者選抜実施要領等について御報告いたします。

入学者選抜に関する大綱につきましては、6月の教育委員会会議で御報告させていただき、7月に公表しておりますが、お手元にお配りしております「県立下関中等教育学校及び高森みどり中学校の入学者選抜実施要領」及び「入学者募集要項」並びに「選考検査問題の作成

<p>教 育 長</p>	<p>方針」を、本日午前10時に発表したところであります。</p> <p>それぞれの概要につきましては、資料の33ページの「1」の枠囲みの中にお示しをしております。</p> <p>まず、実施要領につきましては、その要点を「2」の部分にお示しをしておりますが、応募資格、入学定員等を示したものです。</p> <p>また、募集要項は、志願者が出願する際に必要となる事項をまとめたものであり、11月4日（土）に下関中等教育学校で、10月28日（土）に高森みどり中学校で開催します「入学者選抜説明会」において、受検願書と併せて保護者等に配布することとしております。</p> <p>次に、資料34ページの選考検査問題作成方針についてですが、これは「記述式の課題1及び記述式の課題2」の問題を作成するに当たっての方針を定めたものであります。「1 資料をもとに考えたこと等を問う内容とする」、「2 自ら課題を見つけ、筋道を立てて考え解決しようとする態度や能力等を総合的にみることができるよう出題に努める」、「3 一人ひとりの児童の意欲や発想の豊かさ等をみることが出来る内容を出題するよう心がける」としております。</p> <p>以上、御報告申し上げます。</p> <p>ただいま、高校教育課から報告事項3について説明がありましたけれども、御意見、御質問がありましたらお願いいたします。</p> <p>よろしいでしょうか。それでは、報告事項3については、以上のとおりとします。</p> <p>それでは、意見交換に入りたいと思います。</p> <p>本日の意見交換テーマ「県立高校におけるコミュニティ・スクールの充実について」でございます。高校教育課から説明をお願いします。</p>
<p>高校教育課長</p>	<p>県立高校におけるコミュニティ・スクールの充実について御説明します。</p> <p>まず、コミュニティ・スクールの現状について、国の動向や本県での位置づけなどについて概要を御説明します。</p> <p>コミュニティ・スクールは、平成16年の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正によって制度化され、これにより指定学校への学校運営協議会の設置が可能となりました。</p> <p>その後、平成27年に中央教育審議会が、「全ての公立学校において、コミュニティ・スクールを目指すべき」との答申を示し、平成29年3月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、学校運営協議会の設置が努力義務化されております。</p> <p>こうした国の動向を受け、全国におけるコミュニティ・スクールの導入校は、この表にお示ししていますように、小・中学校を中心に増加しております。</p> <p>全国の小・中学校及び義務教育学校における導入率は11.7%ですが、山口県におきましては、市町立小・中学校の導入率が平成28年度に100%となったところです。</p> <p>高校につきましては、平成29年度には65校となり、前年度から40校増加しております。小・中学校に比べますと、高校全体の導入</p>

校数はまだ少ないものの、増加数は大きく伸びており、学校運営協議会設置の努力義務化により、今後さらに増加するものと見込まれます。

次に、高校における都道府県別の導入状況です。

全国的に見ると、都道府県立高校にコミュニティ・スクールを導入している自治体は11あり、導入率を比較しますと、山口県が26.9%で、全国第1位という状況になっております。

本県では、「未来開拓チャレンジプラン」や「山口県教育振興基本計画」におきまして、コミュニティ・スクールの充実を重点施策に位置づけ、学校・家庭・地域が連携・協働した社会総がかりによる「地域教育力日本一」の取組を推進していくこととしています。このような方針の下、本県では、小・中学校のコミュニティ・スクールを核として、本県独自の「地域協育ネット」の仕組みを生かした「やまぐち型地域連携教育」を進めることにより、子どもたちの学力向上はもとより、郷土愛や地域貢献・社会貢献の意識が高まってきています。

このような義務教育段階からの、地域と連携・協働する教育を高校においても継続し、高校の特性を生かしながら地域と連携することで、地域の支援により高校の教育活動が充実するとともに、高校が、その専門性を生かして地域の活性化に貢献するなど、「人づくり・地域づくりの好循環」を生み出すことができると考えております。

こうした取組を進めることにより、郷土を愛する心や地域の担い手としての意識を育み、本県の将来を担う人材を育成していくため、高校へのコミュニティ・スクール導入を推進しています。

次に、本県の高校におけるコミュニティ・スクールについて、導入状況や概念、各学校での具体的取組や成果と課題等について御説明します。

まず、県立高校等への導入状況ですが、平成27年度にコミュニティ・スクールの導入準備として、周防大島高校、美祢青嶺高校、大津緑洋高校の3校をモデル校に指定し、実践研究を行いました。

その後、平成28年にこの3校を、高校では県内初となるコミュニティ・スクールに指定し、さらに今年度は新たに13校に導入いたしました。

現在、県立中学校や中等教育学校も含めて、全16校に導入しているところです。

今後さらに拡充し、平成32年度までにすべての高校に導入することとしております。

現在、コミュニティ・スクールとなっている県立高校等は、御覧の16校であり、市立下関商業高校にも導入されております。

今後も、全県的な配置バランスや学科のバランスなどを踏まえながら、導入を進めてまいります。

高校は、小・中学校とは異なり、通学区域が広範囲にわたること、また、さまざまな課程や学科等があり、学校ごとの教育目標や地域の期待等も異なるという特性があります。

このため、本県では、高校のコミュニティ・スクールを、一定のエリアにとどまるものではなく、各学校のテーマに応じて、広く大学や企業、関係機関等と連携し、学校や地域の課題解決を図る「テーマ型

コミュニティ・スクール」だと位置づけています。

例えば、地域の期待が主に「大学進学率の向上」であれば、県内外の大学等と連携することにより、学校が活性化し、地域の期待にも応えることとなります。

また、県内就職率の向上に取り組む場合は、企業や商工会議所等と連携することにより、学校と地元企業をともに元気にすることができます。

さらに、学校が存在する地域において、地元住民や首長部局とともに地域の活性化を図る活動を行うことも、もちろん学校と地域とを相互に活性化させることにつながります。

このように、各学校が学校運営協議会の中で意思統一した方向性に沿ってさまざまな課題を解決するための活動を行うことが、高校のテーマ型コミュニティ・スクールであると考えております。

このようなテーマ型コミュニティ・スクールの取組を充実させていくことにより、地域資源を生かした子ども達の豊かな学びを実現するとともに、郷土を愛する心や地域の担い手としての意識をしっかりと育み、地域の活性化や若者の県内定住・還流につなげていきたいと考えています。

それでは、コミュニティ・スクール導入校の具体的な取組の様子を御紹介いたします。

まず、平成28年に先行導入した美祢青嶺高校では、学校運営協議会のメンバーに、美祢市教委、地域の小中学校、企業、社会福祉協議会、美祢市総合観光部など、さまざまな関係機関の方を選出することで、地域との多方面にわたる連携を可能とし、さまざまな意見や幅広い協力を得ることができています。

具体的な活動内容としては、企業と連携し、企業から提供を受けたソーラーパネルを用いたソーラーボート製作の学習。「美祢ランタンナイトフェスティバル」への、工業科生徒が製作したランタンの出品。山口大学及び美祢市と連携し、衛星回線を用いて深海掘削船についての最前線の研究について学んだ大学出前授業、秋吉台科学博物館で学芸員の業務を体験する地域活性化型インターンシップ、高校生と地元小学生と一緒に科学実験などを行う、社会福祉協議会主催の「みねっ子広場」など、美祢市内で唯一の公立高校として、普通科・工業科それぞれの特色を生かしながら、将来の美祢を担う人材の育成を図るとともに、地域の期待やニーズに応える多様な取組を行っています。

大津緑洋高校では、長門市の活性化策を生徒が考え、市に提言するプレゼンテーションの取組、地元企業の開発担当者との連携による、地元特産品を用いた商品開発、山口県漁協、長門市との連携によるアワビの放流と育成場の整備など、三つの学科の特色を生かして、地元の活性化につながる地域貢献活動を積極的に行っています。

次に周防大島高校では、昨年度、学校運営協議会で学校教育目標の策定に関する熟議を行い、今年度は、10年後を見据えた「周防大島高校将来構想」の策定に取り組むこととしております。

地域での活動としては、地元産直市への、インターンシップや企画・展示などでの参加、フィールドワークの手法を用いて、地域の人材や文化財などを活用する、地域の魅力や課題についての学習、また、

地域のさまざまなデータを分析して、地域を元気にする政策アイデアを提案し、全国で上位7校に入って日本政策投資銀行賞を受賞するなど、地域で唯一の高校として、学校と地域が活性化するためのさまざまな取組を行っています。

次の山口農業高校では、高校生チャレンジショップという、地元アーケード街で、実習生産物及び加工品の販売、伝統野菜の研究展示、木工体験等を行う活動、地元小学生を対象とした、家畜や園芸作物に関する学習会、秋吉台の自生植物の保全を目的とした、お花畑プロジェクトへの参加などの取組を行っています。

次に防府商工高校では、ビジネスとものづくりを学ぶCOCをテーマとして、生徒が市から任命された防府市模擬職員として、市に継続的に出向いて、まちの課題の把握とその解決に向けた施策を考え、市長に提案する、「防府市行政職員業務体験」、それから地元スーパーや小・中学生との連携・協働による「幸せます秋弁当」の開発・試作、企業にブースを出してもらい、企業についての詳しい説明を受けたり、高校生が中学生に、工業に関する授業を行ったりする「テクノアカデミー」などの取組を行っています。

次に萩高校では、萩市長、県高等学校PTA連合会、萩高校PTA役員を指導助言者に招いて、「萩市をより住みやすい町にするためには」をテーマに実施した高校生熟議、県内大学オープンキャンパスへの参加企画、山口大学サテライト講座の受講、さらには広島大学での宿泊研修など、県内外の国公立大学との高大連携の取組、社会福祉協議会、県立萩美術館、保健センターや観光課等と連携し、生徒自らが課題解決的な学習を行う「萩グローバル・ラーニング」などの取組を行っています。

このような、さまざまな活動を通して、生徒からは「地域の活動を通して地域に関心を持つようになった」、「将来、郷土の地域振興に役立つ仕事がしたい」などの声が出てきており、地域への興味・関心や、地域の将来の担い手としての意識が高まっていることがうかがえます。

また、保護者からは、「子どもが地域に役立っていると思うと大変嬉しい」、「知らない方々とも楽しい時間を過ごすことができた」という声があり、地域交流の広がりがみられ、地域の活性化につながっていることがうかがえます。

また、地域からは、「今後も商品開発の提案や研究を進めてほしい」、「私たちが学校を支援していく部分を作っていきたい」など、高校生への期待や、自分たちで学校をよりよくしたいという当事者意識が高まってきていることが分かります。

また、教員からは、「学習への姿勢や地域活動への興味に変化が見られる生徒も多い」、「これまで気付かなかったさまざまな事を学ぶことができた」という声があり、子どもの意識の変容や、教員の資質向上につながっていることがうかがえます。

一方で「教員、生徒ともに、他の業務や行事、部活動との調整に苦慮することが多い」という声もあり、学校における働き方改革の視点からも、活動の整理や、「学校支援の機能」の充実を図り、学校業務の効率化につなげていくことが必要であると考えております。

	<p>以上、御説明してきましたように、高校におけるコミュニティ・スクールの取組によって、地域資源を生かした専門性の高い教育活動の展開、生徒の地域の担い手としての意識の向上、学校と地域との協働体制の構築など、本県の将来を担う人材育成の取組が進むとともに、地域の活性化への直接的な貢献、地域の活性化や地域課題の解決に向けた拠点としての機能の充実など、学校を核とした地域づくりの取組も着実に進んでいると考えています。</p> <p>一方、今後の課題といたしましては、高校のコミュニティ・スクールの取組は、まだ始まったばかりですので、今後、高校ならではの、地域と連携した取組の一層の充実が求められます。</p> <p>また、コミュニティ・スクールの機能のうち、「地域貢献」や「学校支援」には目が向きやすいところですが、「学校運営」の改善に関する視点は欠けやすいという状況があるため、今後は、地域の声を今以上に反映させた、学校運営の質を高める取組を、各校で一層推進する必要があると考えています。</p> <p>スタートして2年目の高校コミュニティ・スクールですが、これから量・質ともに一層充実させ、学校・家庭・地域が一体となった、社会総がかりによる「地域教育力日本一」の取組を推進してまいります。</p> <p>そこで、本日は「高校コミュニティ・スクールに期待すること」というテーマで、「学校の課題解決に向けて」、「更なる地域活性化に向けて」、「高校ならではの特色ある取組に向けて」などの視点から、委員の皆様にご意見をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p>
教 育 長	<p>ただいま、高校教育課の方から、取組状況について説明がありました。意見交換の視点ということで3点ほど示されておりますけれども、各委員がお考えのことをどこからでも結構ですので、お話しいただきたいと思っております。生徒の声や地域の声や先生方の声を聴くと、いかにもすばらしい取組が進んでいるような印象がありますが、まだ始まって2年目ということで、まだまだこれからという部分もたくさんあります。</p> <p>今日はいろいろな視点で御意見をいただいて、今後しっかりと充実させてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
佐 野 委 員	<p>コミュニティ・スクールの導入状況ですが、率直に全国トップということですのですごいことだと思います。小・中学校に続き、非常に頑張っておられるのではないかと感じております。</p> <p>しかし、高校については社会に出ていく手前の、将来の方向性が確実に分かり始める時期なので、コミュニティ・スクールでの経験をそれぞれにあったような形にしていきたいなと思っております。実業系の社会に出ていくことをイメージされている生徒は、より社会に即した内容とか、また、進学される生徒は学習というところでアクティブ・ラーニングと関連づけることで、より深い学びとか学習をきっかけにして、それぞれのところで課題の認識、いろんな機会が多くの人に触</p>

	<p>れ合っ得られる刺激などの中から学びのスイッチを見つけていただききたいなと思います。</p> <p>先日、周防大島高校に行ってまいりましたけれども、その中で「失敗してもいいよ、やっごらん」という言葉を聞きました。失敗できる機会があるというのも非常に大切だと思っております、そんな機会を学校が与えることで、生徒がチャレンジしたり試してみたいことをやってみたりと、学校・地域が包容力をもって支えてあげてほしいと思います。できれば成功したときも、失敗したときも次に生かせるサポートや方向性を与えてあげるなど、いろんな学習へのアプローチを考えていただければと思います。</p> <p>高校というところに行ったということだけでなく、そこで何を学んでいるかということが非常に重要だと思いますので、子ども達の記憶に残る学校生活を送れる、失敗を恐れずチャレンジできるそんな器を高校に用意していただきたいなと感じております。</p>
<p>宮 部 委 員</p>	<p>私も佐野委員と周防大島高校視察に行ってきました。思った気持ちはたぶん一緒だろうと思うんですが、非常に子ども達が生き生きしていて、学校に行くのが楽しいなという感じを率直に受けました。</p> <p>校長先生のお話でもありましたが、入学したときよりも2年、3年と確実に子どもが成長していることが分かるというお話も聞かせていただきました。</p> <p>学校が島に1つなので、他の高校と違うかなと思いますが、ローカルのコミュニティ、テーマのコミュニティの両方ができるということでした。テーマコミュニティが難しいときは、ローカルコミュニティに波及させながら、地域貢献をする場合は、全島にというのではなくて学校のすぐ近くの「海の手」というところで貢献するということでした。全島で実施してしまうと、教員や生徒に時間的な負担がかかってしまいますので、こういう形でやられているということでした。</p> <p>今、話が出ていましたが、実業系の学校はキャリア教育を含めてインターンシップを各地区で地元の産業・業者、それと学校がずいぶんやられているので、その点はスムーズにいくと思います。</p> <p>問題は普通科とか理数科とか進学を目指す場合のやり方だと思います。周防大島高校の場合は、進学を目指している子ども達に案内やパンフレットを英語に訳してもらうことで自信をつけて、勉強する気持ちを高めるということもおっしゃってございました。また、説明の中でありました萩高校では、高大連携ということでいろいろな取組をされているということでした。学問を学術の方で進む形をとらないといけないので、なかなか普通高校では難しいと思いますが、ぜひともやったほうがいいのは間違いないことですので、取り組んでいただきたいなと思っております。</p> <p>視察に行かせてもらって、高校でもすばらしい取組ができるなという認識をいたしましたので、御意見申し上げます。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>ありがとうございます。大変力強いお話をいただきました。他にいかがでしょうか。</p>

中 田 委 員	<p>私も先日、美祢青嶺高校に行かせていただきました。美祢青嶺高校は普通科と工業科ということで、やはり宮部委員が言われましたように、普通科以外のところは就職される方が大部分で、地元に残られるという方が多いので、地域貢献という考え方が合うと思います。</p> <p>それに対して、普通科系の場合は、やはりいい大学にいかにかくさん進学させるかということが学校としての目標に、まず第一にあると思います。例えば、東京とか大阪などの学力の高い大学に進学できる能力がある子どもに、近くにある大学に行けというのはなかなか難しいですよ。そういういわゆるいい大学に行くと、そこでまたさらにいい教育を受けて、目が日本だけではなく、世界に広がっていく。そうすると夢が、自分の力で世界に出ていきたいとか、あるいは日本の会社の中でも一部、二部上場の会社の中で自分の力を生かしていきたいとなるのが普通なわけで、大学教育というのはなかなか地元の教育をするということが非常に少ないと思います。</p> <p>理学部とか工学部、経済学部などで企業を研究対象にしようとしても、大手の会社をモデルケースにして研究する学生が多いと思います。ですから、国立大学あるいは私立大学でももう少し、授業の中に山口県の事例を入れたような授業を組み込むことによって、魅力を伝えて、学生の進路選択を広げていけたらいいと思います。これは大学の方に責任があることなので、少しずつ変えていければなと思っています。</p> <p>もう1点、高校だけでなく小・中学校の先生も非常に忙しく働かれていますと思います。コミュニティ・スクールの中で教員の多忙化に少しでも貢献できるようなものが導入できたら、先生方も助かると思います。しかし、コミュニティ・スクールの導入は、地域の方に授業を見てもらったり、あるいは参加してもらったりすると、かえって負担が増える傾向もあるんじゃないかと思います。そのあたりが解消し、多忙化に貢献できるようになると、もっと高校にコミュニティ・スクールを採用しやすくなるんじゃないかと、そういう感じを持ちました。</p>
教 育 長	<p>これから考えていかなければいけないことが話の中にでてきたのではないかなと思っています。他にいかがでしょうか。</p>
小 崎 委 員	<p>私も先日、中田委員と一緒に美祢青嶺高校に視察に行かせていただきました。これだけ高校がいろんなことをされていると思ってもいなかったもので、資料に載っている以外のことも生徒がされていて、100%になっている小・中のコミスクと同じくらい美祢青嶺高校は取り組んでいると、すごく驚きました。</p> <p>そのため、生徒の「自分が地域に貢献している」というアンケートも「はい」と「まあまあ」というのも合わせれば、100%に近いくらいの生徒が自信を持っていて、それはすばらしいことだなと思いました。美祢青嶺高校は3年目になるということで土台とかができているんですけども、今は用意された場所に行ってボランティア活動するとか、もう形ができあがっているものを続けてやっていくというところがあると思うんですが、これからは生徒が何もないところから作</p>

教 育 長

り上げていく、地域の為に何が出来るかというのを一から企画してやっていくようなことができたなら、もっと子ども達は自信が持てるかなと思いました。先ほど佐野委員さんが言われたように、記憶に残るような高校生活を一つでも多くさせてあげたいというのが保護者としてはそういう思いが一番です。

コミスクと直接は関係ないかもしれませんが、そのときに案内してくださった先生が、電気のこととか、職人技のような鉄を磨く作業などを説明してくれるときに、先生自身がすごく楽しそうで、こういう先生に教わっていたらきっと生徒たちも楽しいだろうな、もっと勉強をやりたいという意欲が湧くんだらうなと思って、先生自身のモチベーションも大切だなと思いました。

ありがとうございました。

私自身の話になりますけれども、かつてコミュニティ・スクールというのは、地域との関係とか、いろいろな行事に参加するとか、地域貢献あるいは学校支援とかがある中で、やはり小・中学校が中心ではないかなとずっと思っていました。ところが、いろんな人と議論をする中で、やはり小・中学校も大切ですが、就職して社会に出る直前の高校生、あるいは大学進学を間近に控えた高校生にこそコミュニティ・スクールは必要だと考えるようになりました。

委員の話の中で専門高校、工業や商業、農業等については地域の産業との関わりがすでにできているから入りやすいという話もあったんですけど、普通高校で考えてみたら、例えば、大学進学を考えている生徒にとって何の為に勉強するのか、何の為に学ぶのか、何の為に大学に行くのかということを考える大きなきっかけになるのではないかと考えています。

私は高校時代、漠然とした大学への憧れというのはあったんですけども、どの大学に入って、どんなことを学んで、そして学んだことを生かしてどんな大人になりたい、どんな職に就きたいかというのは、そこまでの明確な意識は持っていませんでした。したがって、なんとなく漠然と大学に行きたいから受験勉強はするけれども、やっぱり地に足がついていない、そんな勉強をしていたような気がします。

もし私が高校生のときにその高校がコミュニティ・スクールの取組をしていて、例えば、その活動で市役所の職員の人と町づくりの話をしたり、あるいは自分の町の人口がどんどん減っているの、これをどうしたらいいのかというそんな課題を考えたり、あるいは地元の企業の人と地域の特産品を生かした商品開発について議論をしたりするような機会があったら、自分の将来をもう少し具体的に考えて、こういうことがしたいから勉強をするんだという目標が持てたんじゃないかなと考えています。

実際、県内の高校で、例えば理科系の学校の授業で課題研究ということで大学等と一緒に研究をしたり勉強をしたりしている学校があるんですけども、そういう高校生の中に一部ではあるんですけども、あの大学のあの先生に教わりたいというところまで目的意識を持っている生徒も出てきています。そうした生徒は高校での勉強にも、当然、はっきりとした目的意識があるから力が入っていました。

	<p>単に大学受験のために、英語の単語を覚えたり、微分積分を学んだりというのではなくて、コミュニティ・スクールの活動を通して地域と関わりのある将来をしっかりと見据えて、目的を持った勉強ができるようになると思いいなと思います。</p> <p>そして中田委員のお話にもありましたけれども、勉強したらなかなか地元へ目が向かないというのがありますが、願わくは、山口県を活性化させるためにそういう生徒たちがそういう高校に進んでくれると思いいなと思っています。</p> <p>もう一つ、高校生の力というのは、私たちが考えている以上に大きいものがあるような気がしています。だから、地域の活性化であるとか地域への貢献であるとか、あるいは町づくりであるとか、いろんなことに高校生の力というのは想像以上に力を発揮してくれるのではないかなと思っていますので、この取組を大いに進めていきたいなと思っております。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>
小 崎 委 員	<p>学校運営協議会のことなんですけれども、学校運営協議会には、すばらしいメンバーの方々がどの高校も入っていらっしゃると思うのですが、もっとその方たちの力を生かすというか、美祢青嶺高校でも年に3回しかその会議がないということでした。私も萩高校で携わらせていただいておりますが、今度やっと2回目の会議があります。年に3、4回の会議ではきっと委員の方たちもあんまり学校の様子は分からないと思います。ですので、行事などには必ず学校運営協議会の委員の方にも御案内をして、学校に足を運んでもらいたいと思います。</p> <p>委員の方から、自分たちは何のためにしているのかということを知りたくもありますし、あと学校の評価をするという役目もありますが、学校に普段から携わっていないと学校の何を見て評価していいのかが分からないと思うので、学校の方からも働きかけて、呼びかけてほしいと思います。</p> <p>それと、情報をきちんと公開していただいた方が、この高校はこうということに悩んでいますとか、課題はこうですと示していただいた方が私たちも入りやすいし、考えることもできるなと思っています。学校運営協議会は本当に大切な会議だし、みなさん忙しい中集まってくださっているのです、そういう一つ一つのことを大切にしてくださいなと思います。</p>
松 田 審 議 監	<p>高等学校の説明の中で小・中学校の話が出ました。県内で学び育つすべての小・中学生がコミュニティ・スクールの中で育て、そして県内の高等学校に進学していきます。地域をつくる、学校をつくる、その思いを9年間で強く持って育った子ども達が、まだ始まったばかりの高等学校のコミュニティ・スクールではございますけれども、コミュニティ・スクールの充実に、先ほど教育長も申しました、高校生の力を十分に発揮してこれから充実させていってほしいなと思います。</p>
教 育 長	<p>それでは、いろいろと御意見をいただきました。ぜひ、この御意見を踏まえて県立高校におけるコミュニティ・スクールをさらに充実さ</p>

	<p>せていきたいと考えております。以上で本日の意見交換を終わります。</p> <p>次に、次回の教育委員会会議の日程について、教育政策課から説明をお願いします。</p>
教育政策課長	<p>次回の日程について、11月24日（金）午後1時30分から予定しておりますので、よろしく願いいたします。</p>
教 育 長	<p>それでは、以上で10月の教育委員会会議を終わります。</p> <p>傍聴に来ていただいた皆様、本当にありがとうございました。</p> <p>引き続き山口県教育のことをどうぞよろしくお願いいたします。</p>